



図書館だより 10月号

〒519-0505 伊勢市小俣町本町 2 番地 (電話) 0596-29-3900 (FAX) 0596-29-3902

小俣図書館 図書館行事 ご案内!

おはなし会 1階・おはなしのへや



★「赤ちゃんおはなし会」 1階・おはなしのへや

10月 13日 (土) たんぽぽおはなし会、午後3時～

10月 11日 (木) 午前11時～

10月 21日 (日) ピッポの会・紙芝居、午前11時～

★ 図書館おはなし会&工作

(1階・おはなしのへや)



(日時) 10月 27日 (土) 午後3時～

(対象) 3歳～小学生 (就学前の子どもは保護者同伴)

(内容) おはなしを読んだ後、ハロウィンのグッズを作る
工作をします。

◆上映会 2階・視聴覚室

10月 20日 (土) 午後2時～

「イントゥ・ザ・フロンティア

―空と宇宙―」《54分》

※おはなし会、上映会の事前申込みは不要です。

★「トリック オア トリート!!!」★

小俣図書館が
ハロウィン色に染まる日!!



☆ とき 10月27日 (土)

☆ ところ カウンター

仮装で来館をして、カウンターで「トリック オア トリート」と
言った人にはプレゼントがあるよ!!

★10月27日(土)・28日(日)★

仮装をしていなくても、「トリック オア トリート」と言っ
た人には、シオリをプレゼント!!



10月 13日 (土)・14日 (日)

時間 午前11時～午後3時

※13日(土)は午前9時から整理券を配布

場所 2階・ホール

内容 保存期限を過ぎた雑誌・図書、家庭で
不用になった本をリサイクルします。

※13日(土)は1人1回の入場で10冊まで、

14日(日)は入場・冊数ともに制限はありません。

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 毎週火曜日、第2金曜日

年末年始、特別整理期間

貸出 1人10冊2週間以内 (うち雑誌は5冊まで)

1団体50冊1ヶ月以内 (うち雑誌は25冊まで)

小俣図書館カレンダー

10月

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

※9/25(火)～10/4(木)まで特別整理期間で休館です。

図書館だより 10月号

(編集・発行) 伊勢市立伊勢図書館 指定管理者/株式会社 図書館流通センター (住所) 〒516-0076 伊勢市八日市場町 13-35
(電話) 0596-21-0077 (FAX) 0596-21-0078 (ホームページ) <http://iselib.city.ise.mie.jp/>



「おはなし会」

《日時》毎週土曜日 午後2時30分～

《場所》1階・おはなしコーナー

10月6日/おにいさん、おねえさんによる おはなし会

10月13日・20日・27日

/おはなしプーさんによる おはなし会

☆えほんの
よみかせ、
かみしばいなどを
やっています。

* おはなし会、あかちゃんえほんのじかん、上映会 は、
申込不要です。どうぞお気軽にご参加ください!



「上映会」

《日時》10月 14日 (日) 午後1時30分～

《場所》2階・視聴覚室

☆上映会は、
毎月第2日曜日に
開催しています。

『幸せになるための恋の手紙』

アメリカの文化を伝えるミッションのため、恋人を残し、
はるかトンガの孤島に旅立ったジョン。

言葉も通じない島で、彼女からの手紙を支えにゆっくりと
島の人々と心を通わせ、数々の試練に立ち向かっていく…。
実話をもとに描かれる、心あたたまる物語。

(日本語吹替)

(上映時間 110分)

伊勢図書館が現在の八日市場町に新図書館として
開館してから2012年10月で20年を迎えます。

11月に開催する図書館まつりでは、20周年を記念
して、様々な行事を開催します。

詳しくは10月配布のポスターやパンフレット
をご覧ください。

橋本紡さんの小説

『図書館が、ここに。』連載再開!

こんにちは!

いせABちゃんです。

2007年、図書館だよりには
伊勢市出身、「半分が月のぼる空」の作者
橋本紡さんの、学校図書館を題材にした小説
「図書館が、ここに。」が連載されていました。
途中までで連載が終わっていましたが、再開
が決定いたしました!

加筆修正された第1話から掲載しますので、
初めて読まれる方も楽しんでいただけます!
続きを心待ちにいただいていた方は、も
うしばらく首を長くしてお待ちください。

来月、2012年11月号より、連載を開始し
ます。お楽しみに!!

開館時間 午前9時～午後7時

休館日 毎週水曜・第2金曜・年末年始・特別整理期間

貸出 1人10冊2週間以内 (うち雑誌は5冊まで)

1団体50冊1ヶ月以内 (うち雑誌は25冊まで)

** 伊勢図書館・休館日カレンダー **

10月

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	





本のごあんない



【一般書】 わたしのハンドメイド

あたたかいぬくもりを感じる手づくりの作品！！
ハンドメイドの楽しみをこの一冊からはじめてみませんか？
基本作業やコツ、使い方などを解説した本を紹介します。

◎ 手づくりくるみボタンの本 はじめてでもかんたん！（田口由香、わたなべいくこ／著 誠文堂新光社）

◎ 未病を治す薬膳酒 自分で作る美味しいお酒（渡邊修／著 薬日本堂／監修 法研）



◎ らくらくオープン陶芸 クッキー感覚で手軽に焼ける（両角香／著 日貿出版社）

◎ 粘土でつくる里山の小さな花と生きもの（川口紀子／著 NHK出版）

◎ 木でつくる小さな食器

バターナイフ、スプーン、れんげにパン皿…はじめてでもやさしく作れる14レッスン

（渡辺浩幸／著 河出書房新社）

【児童書】

しゃやく ハロウィンの主役はカボチャ！？

10月31日のハロウィン。日本でも恒例行事として浸透してきたのではないのでしょうか？でも、ハロウィンっていったい何のおまつり？どうして仮装をするの？カボチャのランタンは何のため？そんなハロウィンの“なぜ？”を解決できる本やハロウィン気分を盛り上げる本を紹介します。



★ いたずらジャック（犬飼さやか／著 新風舎）

★ シャッキリかいこつ（マージェリー・カイラー／作 S. D. シンドラー／絵 黒宮純子／訳 セーラー出版）

★ カボチャの絵本（いとうきみお／へん ささめやゆき／え 農山漁村文化協会）

★ マリア探偵社魔界ハロウィン（川北亮司／作 大井知美／画 理論社）

★ ぞくぞく村のかぼちゃ怪人（末吉暁子／作 垂石真子／絵 あかね書房）

【ヤングアダルト】 「古典を知ろう、楽しもう」

今、注目される『平家物語』や、狂言をもとにした絵本『かみなり』など、古典に親んでもらえる本を紹介します。

【一般書】

● 2 ページでわかる日本の古典傑作選（小川義男／監修 世界文化社）

● 吉村昭の平家物語（吉村昭／[訳]著 講談社）

● カラマーゾフの兄弟 1～5（ドストエフスキー／著 亀山郁夫／訳 光文社）

【児童書】

● 平安文学でわかる恋の法則（高木和子／著 筑摩書房）

● かみなり（内田麟太郎／文 よしながこうたく／絵 ポプラ社）



★ 伊勢・小俣図書館のどちらかに所蔵がある本です。ご利用館にない場合は、予約ができます。

It is not the mountain

We conquer but ourselves

～Edmund Hillary

我々が征服するのは山でなく自分自身である。

一日一山 一步一生

— 東浦奈良男 魂の山行 —

ふるさとの風
山粧う—
～神無月～

春山淡治にして笑ふが如く、夏山は蒼翠にして滴るが如し。秋山は明浄にして粧うが如く、冬山は惨淡として眠る如し。
— 臥遊録 —

山は四季折々に美しく装いを変え、訪れる季節ごとに感動を与える。
人々はその素晴らしさに魅了され山を登り、何かを信じ何かを求め山頂をめざす。

一万日連続登山達成を人生後半の目標にしていた東浦奈良男氏が、志半ば平成23年（2011）12月6日他界した。
86歳であった。

東浦奈良男氏は大正14年（1925）大阪市に生まれた。その後昭和20年（1945）に度会郡小俣町（現伊勢市小俣町）へ移住し印刷会社に勤めていた。山の魅力にとりつかれたのは35歳の時、家族4人で登った乗鞍岳。

頂上で目にした“歩きたくなるような”雲海の彼方に白山が浮かぶ絶景に感動し、登山のとりこになった。

42冊に及ぶ52年分の“山日記”もこの乗鞍岳から始まっている。

馴れそめの、そもそもの山登りである。

あの平湯峠の白山の神々しい姿がなかりせば、これほど痛みつきにもなるまい。…

雲海の山に打たれて生を決す 雲海の山あるかぎり金惜む

昭和35年（1960）8月21日

その後働きながら退職までの25年間の週末登山は、地元の山々だけに限らず全国の名峰にも及んだ。

昭和36年（1961）には初めて富士登山に挑戦。

この時、途中で挫折し闘志をかき立てられた事も連続登山への要因になった。

古くから日本人の心の拠りどころである富士山は東浦氏にとっても特別な存在であった。

生涯を通じての富士山登山は368回にも及んだ。

昭和59年（1984）定年退職した翌日から連続登山への挑戦が始まった。

連続登山のきっかけは、比叡山の千日回峰行の本を読み影響を受けたことが大きいという。

それは修行僧のような荒行に挑戦し続け、最も好きな富士山に登るための体力を保つためであったのかもしれない。

登る山は朝熊山や鼓ヶ岳など主に地元の山々である。早朝自宅を出て徒歩で現地へ向かい登頂し、夕方に帰宅。

雨の日も風の日も事故に遭った時でさえ一日も休まず黙々と歩き続けた。夏場には富士山にも登るが、連続記録が途切れないようにと夜行列車を利用し、翌日は地元の山に登って記録をつないできた。

その影にはいつも家族の支えがあった。家族あつての記録である。感謝の気持ちがさらに山へと向かわせる。

愛妻かづさんの写真は常に一緒であった。一人でなく二人で登っているのだ。

「一万日登山という記録のプレゼントをしたいんです。

ダイヤモンドを買うお金がないですから、記録をプレゼントします。」東浦氏はそう言ったという。

記録が途切れたのは平成23年（2011）6月25日。春に体調を崩した後、極度の衰弱で登山を断念…。

最後に登った山は大仏山であった。連続登山日数は9738日。記録達成予定日は平成24年（2012）3月12日だった。

“一日一山”27年間の途方もない記録である。

東浦氏が座右の銘にしていた徒然草の一節がある。

一事を必ず成さんと思はば、他の事の破るるをも傷むべからず。

人の嘲りをも恥づべからず。

万事に接はずしては、一の大事成るべからず。

この言葉に彼の魂のすべてが凝縮されている。

山粧う富士山に初冠雪が見られる頃、うっすらと雪化粧した雄大な姿を仰ぎ見る聖人の姿がある。

彼はやがて一步踏み出すだろう…

その先にある己の大事を成すために。

※この文章は吉田智彦氏著「信念 東浦奈良男 一万日連続登山への挑戦」を参考にさせていただき作成したものです。

➡ 信念 東浦奈良男 一万日連続登山への挑戦（吉田智彦／著 山と溪谷社）